

信濃美術館整備検討にかかる意見交換会（美術関係者）

日 時：平成 28 年 10 月 15 日（土）午前 10 時から 12 時

場 所：松本市あがたの森文化会館 1 - 2

参加者：11 名

概 要

【主な意見】

〈運営・整備姿勢〉

- ランドスケープ・ミュージアムを強調して、話題性のある美術館にしてほしい。
- 信濃美術館を知らない人が多い。コレクションについても知らない。特色がある美術館でないと人は来ない。山梨のミレーのように核となるコレクションが必要ではないか。
- インバウンドの人が、県内の美術館・博物館に来るような集客を考えてほしい。
- しっかりした美術館をつくるには、東山魁夷館を含めて改築したほうがよい。

〈コレクションポリシー〉

- 美術館のコレクションの方向性が重要。純粹美術だけではなく、産業デザインのような応用美術も意識してほしい。
- 南信からすると、愛知県が一番近く、長野に行かなくても世界的なものが見られる。県出身の芸術家をコレクションポリシーとして大事にしてほしい。

〈開館時期〉

- 新美術館はいつ開館になるのか。
- 長野にとっては、東京オリンピックの翌年が善光寺の御開帳。東京オリンピックから長野に注目が集まる機会になる。新美術館が 2021 年に開館できればよい。

〈常設展示室〉

- 現在の収蔵品をできるだけ展示してほしい。

〈企画展示室〉

- 世界水準の美術作品の鑑賞ができる展示スペースを期待している。

〈収蔵庫〉

- 美術館の収蔵は作品を展示する以上に大切。

〈県民ギャラリー〉

- 美術県展を信濃美術館で開催したい。「基本方針」では県民ギャラリー、講堂、

ワークショップ室・アトリエを合わせて1,000㎡の計画であり、これまでの企画展示室以上の広さが確保できる。私たちとすればこの位あればよい。ただし、2段掛けしないと収まらないので、天井高は5m確保してほしい。現代美術や前衛的な人にも使えるようにする必要があり5mの天井高は必要である。

- 常設展示館と貸し館は、別棟でつくってほしい。
- 松本は松本市美術館を使っているが、長野は大勢が集まれる会場を確保するのに苦労している。新しい美術館で展示できる場所を確保してほしい。
- 華道にも使える多目的ホールをつくってほしい。多目的ホールは、大きなスペースで、小さく区切れるような可動式にしてほしい。
- 現在は、県民文化会館を使っているが狭い。県民文化会館はパネルを設置しないと展示できない。会員が高齢のため、楽に展示できる設備を考えてほしい。周年記念展の場合、業者に照明やパネル設置を依頼したら70万円以上かかった。なるべく費用がかからない使いやすい施設になることを望んでいる。
- 販売してよい条件で、360～500㎡の会場を提供してほしい。また、ミュージアムショップを拡充し、販売の手助けをしてほしい。

<県内美術館との連携>

- 南信からすると長野は遠いのがデメリット。我々が期待したいのはアウトリーチ。上下関係ではなく、共同で企画できるネットワークを考えてほしい。飯田美博には近世、近代の日本美術のスタッフしかいない。市民からすると、現代美術の展覧会へのニーズがある。自分のところではできないことを共同で企画してやれるとよい。また、信濃美術館で行ったプログラムを提供してもえらえるとありがたい。そのようなことに参加できるネットワークを実現してほしい。

<学芸員>

- 信濃美術館の学芸員に審査をお願いしているが、漆器や焼物など幅広い分野に示唆をもらえる学芸員がいるとありがたい。
- 書の学芸員を養成してほしい。
- 学芸員が忙しく、この地域に必要な展示を相談できない。スタッフの充実をお願いしたい。
- 一番要望したいのはマンパワー。学芸員が不足しており、調査・研究が厳しい。正規の学芸員を確保して、県内の美術館の中核的な役割を果たしてほしい。

<駐車場・アクセス>

- 善光寺門前町は非常に人がいるが、城山公園は全く別な空間。門前町に来た人が、美術館に流れることを考えてほしい。
- 金沢21世紀美術館は、駅から巡回バスが出ており非常に便がよい。長野でも美術館行きのバスがあるとよい。

- 善光寺から美術館へのアクセスが弱い。駐車場の確保は必要。
- 駅ビルに展示されている松井康成の作品を見て信濃美術館に行くアクセスの仕方もあるのではないか。
- 九州国立博物館には、大宰府天満宮から地下道を動くエスカレーターで行くことができる。善光寺から城山公園の間にも動くエスカレーターができるとよい。
- 御開帳でたくさんの方が来ても美術館まで来てくれない。善光寺から美術館の場所が分かると人が動くのではないか。善光寺から美術館に足を運ぶ流れが生まれるとよい。

(以上)